

Computer Report

Vol. 53 No. 4 4月号 (通巻 703号)

はじめの言葉

■日米不平等条約の再現だと言われる TPP 交渉入りを、安倍政権も正式に表明した。明治維新前夜の幕末、坂本龍馬が「刀よりも鉄砲、鉄砲よりもこれだ」と言ったという万国公法は、まさに世界の海を渡るためのコンセンサスと目されたものとされる。TPP も、世界のコンセンサスを目指すものだというならば、それによって日本国民が縛られるというのであれば、その交渉内容は、明示開示された上で検討されるべきものである。

■まさにグローバル時代。地球の反対側での農産物の出来不出来が、即日にして世界中の食料価格に反映する時代である。情報社会でもあるのだ。イナイイナイバアでもあるまいに、今時、国と国との交渉事で、「乗るか乗らないか決めないうちは教えてあげない」などという話に乗ること自体がおかしな話である。最早、内容の如何ではない。話し合いの作法が、すでに「万国公法」に悖(もと)るというものだ。

■悪徳業者でもあるまいに、めくら判を求めてくるような相手は、相手にせぬ方がいいだろう。経団連の会長は、TPP 参加がなくては日本が世界に立ち後れることになる、声を荒げている。ならば、どのように立ち後れることになるのか、詳細を知っているというならば、日本国の経済人として、国民に知っている内容を明示開示して説明するべきだろう。日本政府が知らない内容を、どこで知ったのかも合わせて知らしめて欲しいものだ。

■それとも、日本政府は、交渉内容を知っていて国民に知らせようとししないのだろうか。何故、経済人が国益論まで持ち出して「参加すべき」としていることがらについて、日本政府は国民に知らせることができないのだろうか。交渉がへたであると、常に言われる日本外交。身内鼻肩、日本可愛さから、もっと上手くやってくれの願いを込めてのキツイ評価であるとしても、TPP 問題では、明らかに日本政府の外交の進め方はおかしい。

■群盲象を撫でるが如しではないが、マスコミにしても、論調の背後に何かあるのかと思わせぶりの報道で、さっぱり全貌が解らない。見えたところだけで、全てが解ったふうな振る舞いをする、これほど危険なことはない。すでに、北朝鮮の構えは完全に戦時態勢にあると言える状況だ。サイバー攻撃は、すでに軍事行動である。韓国との通信線を断ったことにアメリカが反応している。日本は大丈夫かと思う。

■世界第二位経済国家である中国への ODA 支援は今も続く。その金は、アフリカで中国による支援金として使われ、中国が感謝されているという。何故、いまだに中国支援 ODA なのか。一説には、その見返りを受けている勢力があるからだという説もある。早い話が、ODA からみの不正なペイバックの存在を意味するらしい。事の真相はともかく、そういう噂が飛び出すのも不可解な中国支援の継続にある。即刻停止するべきだ。

■戦争も経済活動の一形態だと言うが、経済交渉も戦争の一形態である。第二次世界大戦は、列強の我が国へのエネルギー封鎖がキッカケだ。石油一辺倒だったエネルギー問題も、ここにきて天然ガスの供給価格で世界中が駆け引きをしている。ロシアのガスもアメリカからのシェールガスの登場で単価交渉が揺らいでいる。世界一高い価格でエネルギー輸入をしている日本に、めくら判経済交渉などを行っている余裕はない。(藤見)